

## 第25回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブルを開催しました

開催日時：2019年04月11日(木) 19:00～20:30

開催場所：此花区民ホール 第1会議室

巷では桜の話題がそこかしこで聞かれ、前回紹介されました「梅香さくらまつり」の開催を週末に控える中で行われました「～未来このはな～ 二代目ラウンドテーブル」です。このラウンドテーブルは生活の中で「してみたいこと」をテーマに自由にアイデアや意見を出し合う場です。年齢や性別、肩書は一切関係なしに、此花をよりよくするために何か話そう。何か語ろう。という構想で行っています。

参加のルールは簡単で、①お互いの話に乗かって盛り上げましょう、②異なるご意見も尊重しましょう、③多少の脱線も容認しましょう、となります。今後も毎月第2木曜日に此花区民ホールにて定期開催する予定です。次回は、5月9日(木) 19:00より、区民ホール第1会議室にて開催予定です。参加は事前予約なしの自由参加です。お仕事の都合等での途中参加も歓迎いたします。お時間の許す方は、一度覗いてみてください。

今回は7名の皆様がお集まりくださいました。話は週末に投開票となりました選挙の講評に始まりましたが、参加者からの「西島は田舎だ」(個人の感想です)との指摘を受け我が街の愛着を語る流れになり、最後に此花の昔を知る方から「古き良き此花」を拝聴することとなりました。以下に皆様からのお話の一部を要約・抜粋いたします。

### ○「西島は『田舎』だと思います」(個人の感想です。)

「私は西島に実家があって、用事がありここ1週間くらい西島の実家に住んでいるんですが、まあ西島は『田舎』なんですよ。西島に住んでいて千鳥橋や西九条に来たら笑い事ではなく『都会に来た』と感じます。西島は北港通から1-2本通りを入ると、『一休』さんの辺りなんか本当にそうですけど、ただの住宅地の風情です。」

「そうかもしれませんが、西島の方は活動的というか地道な活動を続けておられます。西島の子供食堂では、営業している日には高校生が小学生に勉強を教えているようです。大人の方も近所でちょっと困っていたらお洗濯を手伝ってあげたりしていると聞いています。西島集会所では子育て支援や保健所の方が来て指導されたりとかしていて、しっかりされているなど感じました。」

「西島は子供からお年寄りまで住みやすい街だと感じます。地元の間人が多いからかもしれません。僕らのように西島生まれの人たちが結婚しても西島に住み続けていることが多いです。」



「大正もそうですね。結婚して一旦外に出て行ってもまた戻ってきたりとかしています。他所から来た私としては、最近の地震だの津波だのと話を聞かされるたびに正直あまり大正には住みたくないと感じるのですが、嫁さんは実家が近いとか親父さんがもう年だからとか言って大正を離れようとしません。」

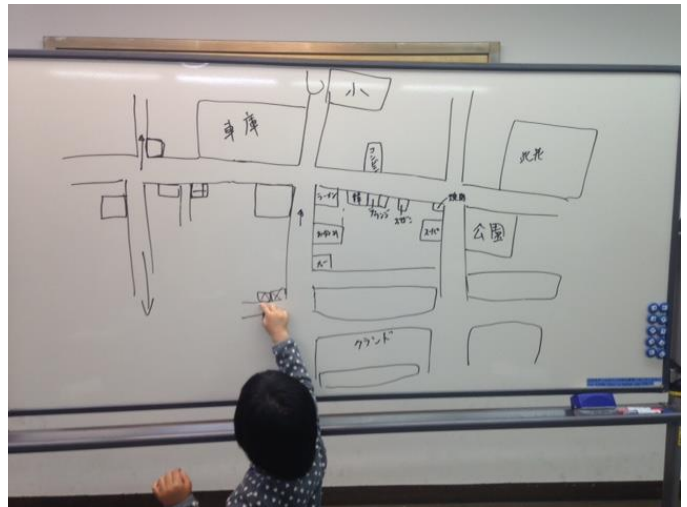
「西島のことを言えば『利便性』は必ずしも高くないと思います。街の中だけで生活が完結してしまう空気感は果たしてあるのかなと思います。小さなスーパーがありますが便利というには微妙なところですよ。小学校に通う子供たちが連絡帳みたいな文房具を買いに、わざわざ千鳥橋まで出てきているそうです。昔は西島にも文房具屋さんがあって僕らもそこで買い物をしていた訳で、西島にもそんなお店が一つあっても面白いのかなと思います。」

「私の子供の頃にもそのような店が校門前にありました。『駄菓子屋』兼『文房具屋』みたいな感じですよ。朝は学校指定の文房具などが売っていて、夕方は駄菓子屋として子供たちが集まるイメージですよ。」

「スーパーマーケットとは違う地域に根差した小売店が一つあれば、そこをプラットフォームとして地域の交流を深めるようなことも可能でしょうし、本来の意味での『集会所』をもう一度作り直すというのも面白いかなと思います。一旦離れた方たちが戻ってきている中で、人のつながりをもう一度作り、街の活性化に繋がられるのではないかと考えています。街の良さを分かって戻ってきている方たちなので、その『場所』を自分たちの使い易いようにアレンジしていける環境ができればいいんじゃないかなと思います。40代になる自分の同級生と話をするとう『西島をなんかして盛り上げていこうや』という気持ちをお互いに感じています。」

そこから西島解説に話が移り、西島の「都心」と目される「西島車庫」周辺を地図に起こしてくださいました。ご自身の西島の実家周りを「西島には店が4店しかない。」などと卑下しつつ、西島繁華街の概要をご説明いただきました。

そこから「諸説あり」となりましょうが、梅香、西島、四貫島の地名の由来が披露され、また、その設立に皇族の方が関わっておられる「無憂園」の話から戦後の此花の昔話をうかがう流れになりました。



## ○『今と昔を比べると』どちらが住みやすいのでしょうか・・・

「今の暮らしと当時の暮らしを思い浮かべてどちらが便利だと思いますか。昔と今を比べてどちらが住みやすいと感じますか。」

「当時住みやすかったという感覚よりは、これが『当たり前』という感じでしょうか。今のことを考えれば夢の夢で、昔は地下鉄もなかったですし大阪駅の周りにはヤミ市が広がっていて、九条の方へ行くには西九条の隧道を潜るか春日出の奥の方から船で渡っていました。どこに行くのも歩くことが当り前の時代でした。」

「買い物は、八百屋にしても西洋野菜などの品揃えはありませんでしたが、『公設市場』がありましたので不便はなかったと思います。八百屋、魚屋、肉屋はもちろん、着物や下駄、傘屋などもありました。その周辺にもお店が広がっていて、皆さんそれぞれ『お得意さん』を持っておられました。お得意さんが買い物する間はしばらく子供を預かってくれることもありました。地域ぐるみでそんな感じでしたので、今のお母さんに比べると住みやすかったのかもしれない。」

「昔は共同水道で洗い場があったのですが、ここに『アカコ』といって小さいミミズが巣くっていたもので、子供が熱を出した時には近所の方がこれを 10 匹程度捕って煎じたものを持ってきてくれました。これを飲ませると熱が下がると言われていました。また喘息にはトウモロコシの髭やナメクジを煎じたものが効くと言われていました。『雪ノ下』や『十薬』は傷に効くといわれて、葉っぱを揉んでそこに乘せておくと治ると言われていました。」



「私が子供の頃、原因は不明なのですが肌が荒れて湿疹が治らなくて。その時島根のおばあちゃんの家に行ったとき『十薬』を飲まれたのですが、これで治りました。十薬は体から悪いものを排出してくれるとのことで健康にはいいみたいです。」

「近所の方々がお互いに気にかけてくれていたという感じはありました。今でいう家庭内での『虐待』みたいなものはなかったと思います。子供が叱られることはありましたが、周りの人もそれは当たり前のことだと思っていました。『しごき』のようなもので子供が物干し台に括りつけられるようなこともありましたが、しばらくすると

隣の家の方が『また悪いことしたんか』と解いてやって自分の家に連れて行ってお結びなど食べさせ、『もう堪忍したりいな』と取り成すこともありました。」

「地域のみんで育てているという感じがありました。悪いことをすれば皆が叱りますが、それで『あのおばちゃんは怖い』などと言われることはありませんでした。今の世の中は便利ですが『住みやすさ』の面では昔の方がよかったのかもしれない。」

「子育てをしている時、母親はすごく孤独になります。社会から遮断されたような錯覚を持つことがあります。まして子供が熱を出した時は外にも出られず、ますます塞ぎ込むことになりませんが、昔のように皆に気にされていれば孤独になることもないですし、虐待など起こりようもありません。」

「今のご時世『他人に出来るだけ関わらない』というような風潮がありますが、昔は周りと関わることへの垣根が低かったように思いますし、生活の中で関わっていることが必然であったように感じます。」

---

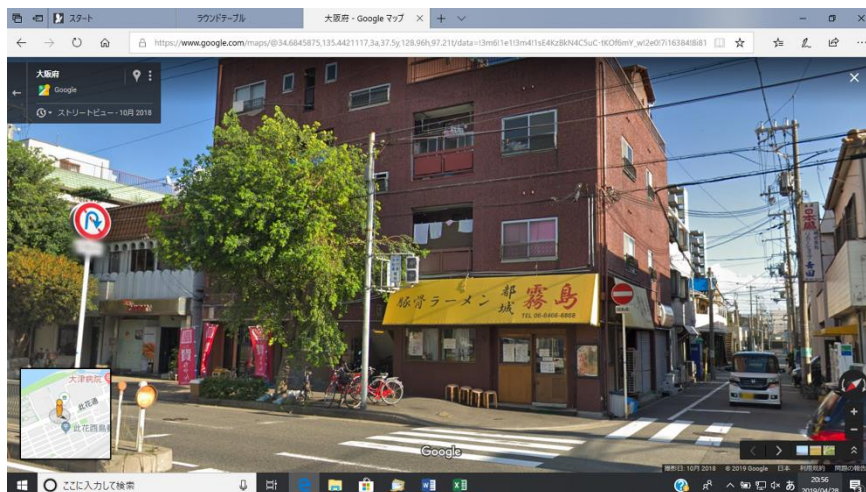
会の最後に「昔は『10 年ひと昔』と言っていましたが、最近は『1 年ひと昔』だと感じます。」との言葉をいただきました。見慣れた街並みも 1 年もたてばガラリと変わってしまうこともありますし、生活習慣もまた然りです。昔の「地域ぐるみ」から個人主義やプライバシーの尊重が声高に言われるようになり、それでも最近はシェアハウスやシェアサイクルなど「共有」の文化が盛り上がるなど、時代の揺れ戻しかもしれません。

文章の締めくくりに、話題となりました「西島繁華街」の写真をグーグル様からおかりしてきましたのでご覧ください。



○焼肉屋さんを筆頭に並び飲食店街。公園を挟んだ奥に、地域の食を支えるスーパーマーケットがあります。

○酒屋さんとラーメン屋さんの間から奥のラウンジを望む通り。西島車庫の向かいとなるここが西島の都心と目されるようになります。



気になった方はご自身の足で西島探索をお楽しみください。西島には、大阪シティバス 56/59 系統「西島車庫行」が便利です。夜の西島繁華街はかなり混みあっていて満席で入れないこともあるそうですのでご注意ください。

以上です。

次回は、5月9日(木) 19:00 より、此花区民ホール第1会議室にて開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。